

## 皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

### つっぱるのが当たり前なのに、洗顔後しっとりする。なぜ？

洗顔料や石鹸を使って洗顔した後の「つっぱり感」は、皮脂や細胞間脂質、角化細胞を構成する細胞膜の脂質など、皮膚に必要な脂質が過剰に取り除かれ、皮膚バリアがダメージを受けることが原因です。しかし、最近の洗顔料や石鹸が洗顔後にしっとりと感じるのは、主に保湿成分の効果によるものです。

しっとりと感じても、洗顔後の肌の皮膚バリアは機能低下しており、つっぱりや乾燥、炎症が起きやすい状態に放置されています。この科学的事実をほとんどの方は知りません。

1. 保湿成分の配合: 多くの現代的な洗顔料には、グリセリンやヒアルロン酸などの保湿成分が配合されており、これにより洗顔後に肌がしっとりとした感触を一時的にですが維持します。
2. 合成界面活性剤の使用: 一部の合成界面活性剤は、より穏やかで刺激が少ないものがあり、皮膚バリアを極端に破壊しないように設計されていますが、洗浄力は低下します。ただし、これらも長期間使用すると皮膚バリアに悪影響を与えます。

こうした配合成分によって、一時的に肌がしっとりと感じることが可能ですが、長期的にはやはり皮膚バリアを修復・強化するケアが必要です。洗顔料や石鹸を使って洗顔した後の肌の皮膚バリアは機能低下しています。つっぱりや乾燥・炎症が起きやすい肌状態です。

洗顔料や石鹸を使って洗顔した後には、つっぱりや乾燥や炎症を防げる、リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品（例えば、海森水）を使用し、皮膚バリアを修復・強化するスキンケア方法を選ぶことが大切です。